



あなたにとって市民劇場とは 1年を振り返って、その思いを字数制限なしで伝えていただきました。この次は あなたも

# 2016 私の劇評

## 六〇代

### 「素晴らしい出会いに感謝」

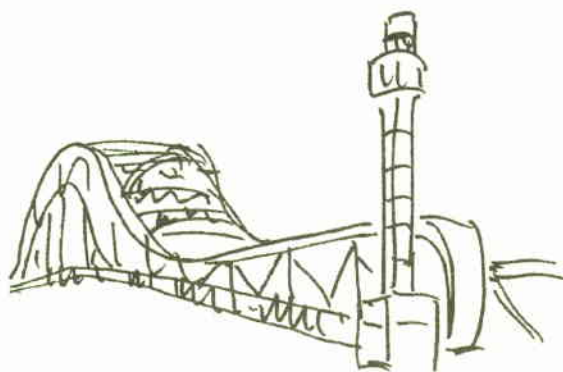
2月のメディアは、さすがが平様と言つて良いのでは、声といいすべてが良かったです。私は今回で平様のお芝居は3作品見ましたが、歳を重ねてもどこか若い俳優さんと違いますね。初めは好きではなかったのですがお芝居を生で見ていつしか平様のファンになっていました。もう一度見たいですね。4月は、こんな会社がお芝居にあればと思う内容のお芝居。昨今ブラック企業と呼ばれる会社が多い中で、職場が楽しいなんてすごいですね、内容・表現が全体に良かったと思います。私も今の仕事を楽しみながらも少しがんばろうと思えました。考えが甘いかなあ？ 6月は江戸時代の日本の良さを再認識しました。現代の日本人（私を含め）は何事にもやや無関心で賢沢でズル賢い気がします。現代の子供に教えるために作つたお芝居と言つても前半の説明はもう少し短くてもよいので

は？9月の百枚目の写真で、家族の写真を撮影して戦地の父親・兄弟に送っていたこと、初めて知りました。軍（国）のすることのずるさ・卑怯さに怒りを感じました。改めて私は戦争反対と声を上げなくてはいけないと思つています。10月はホテルを舞台に5年ごとに二人のしたたかな女性の人生、どちらの女性の性格が私かと考えながら見ていました。12月は沖繩戦を舞台に炊事班の日本人・アイヌ人・沖繩人と人種差別があり、軍は方言を使うとスパイとみなすとか・なければ盗んでこいと、ここでも軍の横暴な態度が表現されていきました。映像を見ながら聞くのと違い、舞台の薄暗いところでの爆撃の音・戦車の音に恐怖を感じました。ものすごく怖かったです。現在も世界のどこかでこんな音がしているのかと思うと本当に怖いですね。題名と内容がちよつとかみ合わない気がしました。佐々木愛さんの沖繩のおぼん役はびつたりでした。人間の怖さ・や

さしさがどの作品にもあり私に何かを教えてくれました。改めて6本の作品を振り返って見る時を下さつてありがとうございます。（女性）

「出戻りと感想会」 M・T

私は、市民劇場に出戻つた者である。以前会員だった期間は少なくとも七、八年あつたと思う。しかし、居酒屋での交流会など楽しいときも多々あつたのだが、矯正視力一・〇ありつても文化会館の後ろからでは役者の表情がとらえきれなかつたことや、生来の集中力のなさで役者の言葉や行動が一部飛んでしまい、観劇後芝居の意味がつかめなかつたことが続いたなどで脱会したのである。それから少なくとも二〇年以上経過した。何故出戻つて会員になつたかという、何ととってもK氏との出会いが大きい。彼は、実に情熱的に市民劇場への入会をすすめてきたのである。正直いつて芝居をもう一度見たいという気持ちが強いわ



けではなかった。それよりむしろ K 氏の人柄にほれ、何回か会っているうちに彼に嫌われたくない気持ちが生じ、再入会したものである。無論、今度こそはしっかりと集めて鑑賞し、感想会に出席し、自分の芝居を見る力を鍛え、ひいては成長したいというもつともな理屈を考えていたが。さて、入会后三本観た。やはりもともとそれほど芝居好きでないことや、年令とともに四時間ほどで早朝めざめるため睡眠不足もあり、三本とも面白いところはあったが、昔と同

じくぼーっと見ているのが実情である。でも今は、感想会に極力出るようにしている。この会の雰囲気を実にいいのである。私にも多少ブライド（虚栄心）はあり、観賞後の個人的な感想を会で述べ皆から評価されたいという気持ちがあった。だが、そもそも先述のとおりそのような感想は、居眠りしているのだからもともとなく、参加を当初はためらったのである。でもそこは年の功、どんな雰囲気なのかと思ひ一度参加した。するとそこは、ビールなどを多少飲め、また菓子やつまみなどもあり、おらかな様子で、別に感想を述べさせられることもなく、むしろ話したい人が自由に話し、しかもそれが聞いていると面白いものだから、もともと感想はないのに、何かつられて話したくなってくるのである。何を話しても、ちっぽけなブライドが傷つくようなところはない。当面、感想会出たさに市民劇場を続けようと思っている。

（男性）

「演目を選択できないのは、メリット」

2016年、6本の例会は全部観劇出来た。それぞれがすべて違って素晴らしい芝居だった。私が旭川市民劇場に入会したのは1978年「人間嫌い」文学座、主演、江守徹。最初に観る芝居は大事である。自分には無理！となるか、永く観続けることになるかここで決まるのだから。内容はきつと良かったんだろう。しかし、今となつては芝居の中身よりも、その時の機関紙を飾っていた（と思ふ）、デフォルメされて頭でっかちの短足の江守徹のイラストが目に焼き付いている。以来、38年間観劇を続けている。例会本数は二五五本。一貫して観劇日を最優先してきた。仕事も、飲み会も、旅行も。どうしても無理な時は、他団体まで観に行つた。それでも、どうしても観られない芝居があつた。風邪をひいて40度近くまでになつてしまひさすがに断念した。それは1990年5月例会「二ノ

千力」。劇団N.L.T。主演、黒柳徹子。今でも悔やまれてならない。あと、1、2本見逃しがあるが題名は定かでない。これらの例会には、今は亡き名優たちの演技、ダンディな俳優、演劇史に残る名作などが多数ある。例会は様々な要因で決定されるが、必ずしも毎回、自分が待ち望んでいた作品でないことがほとんどである。なのに、なぜ、肯定的でいられるのか。それは、芝居にとどまらない思いがけない出会いがあるからである。登場人物だったり、芝居から波及した本、映画、音楽、そして人。確かに不満足な芝居もある。しかし、それもいい作品に出会うための肥やしと思えるようになった。自分では絶対選択しなかつた作品、食わず嫌いだった作品に自分の評価が高くなるものが結構ある。自分の好みだけ、強いつながりだけを求めて行つた時、これほど幅広い世界に出会えただろうかと思う。私にとつて、選択して観られない今のシステムはメリット



史に学ぶ」「原点に戻る」。  
2016年を振りかえってあらためて噛みしめています。「旭川市民劇場はわたしの学び舎」とても大切な。  
(男性)

七〇代

「二〇一六私の劇評」

一年を振り返っての劇評？さて、私のような年齢になると、ハッキリとした記憶というものに自信がなくなり、二月とか四月とかの例会は何を鑑賞したのかボンヤリとしかおぼえておらず(ナサケナイ：トホホ)劇評どころではないのが現実です。ですが：六月例会「くずくしい屑屋でござい」の例会は、意外な程おぼえています。なぜだろう？と思ったら、舞台と客席の掛け合いのあった場合があったからです。自分も一緒になって芝居していたからかもしれせん。掛け声の参加が楽しかったあゝ。私は人情もののお芝居が好きです。笑いあり涙ありの舞台を今後も観続けていきたいと思っっているこの頃です。 ミサロウタ

(女性)

「私の劇評」

2016年の例会は全くハズレがありませんでしたね。「王女メ

ディア」の平さんの迫力と存在感に圧倒され、「幸福な職場」では、本当の優しさとは何かを考えさせられ人間で良いな〜と思ひ、「くずくしい屑屋でござい」笑って笑ってホロリとして、期待以上に楽しめました。そしてこの例会から怒涛の(笑)前例会クリアが続きました。嬉しいですね。2017年も、この勢いを継続したいですね。9月、10月、12月例会、それぞれ芝居の中身も舞台装置も含めて楽しむ事が出来ました。9月例会「百枚めの写真」では、時が変わる場面毎に仏壇の花も変えていて、気付いた自分に感動(笑)。褒める事だけになってしまいましたが、本当に今年は素晴らしい作品ばかりでした。  
(女性)

